

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

生活世界の安全保障5「人間の安全保障」受講生

成田 矩子 (文教育学部 人文科学科1年)

文理融合リベラルアーツ生活世界の安全保障より、荒木先生の「人間の安全保障」について発表させていただきます。

この科目は、来年度「生命と環境」の「開発と共生」として開講されるものです。この授業では、「人間の安全保障」という、国家の枠組みを超えて、人間の生にとってかけがえのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現することを目指した概念について解説し、主にJICA国際協力機構事業に携わっている方々をゲストの講師にお迎えして講義していただきました。

講座の初めには、日本のODA(政府開発援助)やJICA、そして人間の安全保障についての基本的な概念について講義されました。この授業の参加者は1年生が多かったこともあり、概念を理解することは簡単なことではなかったと思います。しかし、この講義の初めに概説があり、次に、特に人間の安全保障に関連した国際協力活動の具体例をお話するゲスト講師の先生がいらっやって、再び人間の安全保障という概念について詳しくお話をいただいたため、すぐに理解できなかった概念というものが繰り返し説明されることで、現実の事例とリンクして理解することができたのだと思います。

私個人の話となりますが、私は現在、パレスチナ問題について関心を持ち、JVC(日本国際ボランティアセンター)でボランティア活動をしています。その活動の中でも、大学で学んだ人間の安全保障についての知識やゲストの先生のお話から感じたことを役立てることができ、大学の講義で得たものを実際にアウトプットできることは、とてもうれしいことだと思いました。国際協力の生の現場で今まさに働いており、各分野・領域のエキスパートの方々にお話しいただいたこの講義は非常に有意義なもので、私たち自身に何ができるかを深く考えさせるきっかけも与えられました。

私にとって非常に有意義であったこの講義に提言をさせていただくとすれば、まず一つに、文理融合リベラルアーツということで、リベラルアーツでなければ受講のきっかけがなかったかもしれない理系学科の学生も、少数でしたが、この授業を受講していました。文教育学部で文系学生である私は、普段異なる授業を受けている彼女たちが感じたことや意見を交換し、もっと交流してみたかったと思います。

講義の一環として、広尾のJICA地球ひろばを訪問し、グループワークをする経験を持ちましたが、文理融合という点では十分にその利点を生かしきれていなかったのではないかと思います。

次に講義前に提出するコメントペーパーについてです。毎回先生方のお話は本当に充実していて、90分の授業時間では足りないほどでした。質問時間も設けられてはいましたが足りず、コメントペーパーに記入する生徒も多かったと思います。それに対する回答を得たいというのが、私やほかの受講生の希望です。

しかし、私もJVCの職員の方が大学で授業を持って、その仕事をするのがとても大変であるということを目で見ています。国際協力という忙しい現場で働かれている講師の先生方に、私たちのコメント一つ一つやレスポンスを求めるのは難しいことでしょう。しかし、ぜひ改善に向けて考えていただきたいことの一つです。

貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

Ochanomizu University